

第1章 札幌市中央卸売市場活性化ビジョンの基本的な考え方

1 ビジョン策定の趣旨

市場開設50年余を迎えた今日、近年の国内景気の低迷、また、生鮮食料品流通の多元化、消費スタイルの変化、市場外流通の増加等により、生鮮食料品の卸売市場経由率は低下傾向にあります。

また、少子高齢化を背景として、食料消費量は減少傾向にある等、卸売市場を取り巻く環境は大きく変容してきており、市場事業者の経営内容は、今までにない厳しさに直面しています。

こうした中、私たちは、将来にわたって持続可能な強い市場づくりのため、北海道の拠点市場として、食料基地である北海道のポテンシャルを最大限活用して市場の活性化や経営の健全化を図るべく、市場事業者と開設者が一体となり、今後10年間のあり方を示す活性化ビジョンを新たに策定しました。

2 ビジョンの特徴

私たちは、水産、青果の開設部門が合同で、卸売業、仲卸業、小売業等の業種の垣根を越えて、卸売市場の長い歴史の中で初めて、「中央卸売市場活性化に向けて～今、私たちに何ができるか～」をテーマとしたワークショップを平成22年8月に開催しました。

そのワークショップの際に、市場全体で合意された3つの基本理念とそれを実現するための4つの視点の共有を起点として、さらに意見交換を深めて導いた16の基本目標により、卸売市場活性化のための取り組みの体系化を図りました。

加えて市場を活性化するための16の基本目標ごとに、その目標を具体化するために取り組むべき事業等を、想定範囲内で列記するとともに、その実施主体についても記載しました。

このビジョンの特徴は、札幌市中央卸売市場を構成する者すべてが参画することにより、今後の卸売市場の方向性について市場全体で作らされたことです。

3 ビジョン策定の取組み

私たちは、ビジョン策定に向けて平成 22 年 11 月に「中央卸売市場活性化委員会」を立ち上げました。

この活性化委員会では、昨年 8 月のワークショップにおいて確認された方向性ごとに 4 つの下部組織（ワーキンググループ）を設置し、ここで各方向性の具体策を検討しました。

このワーキンググループ会議では、市場全体の将来を考えて、出席者がそれぞれの所属する組織にとらわれず、きたない意見が交わされました。

そして、関係事業者、開設者ともに多忙な業務の合間を縫って、計 4 回の活性化委員会、ワーキンググループ会議、数え切れないほどのヒアリングや打合せ等を行い、このたびの札幌市中央卸売市場活性化ビジョンの策定に至りました。

《活性化ビジョンの位置付け》

持続可能な強い市場づくりのために
市場全体で作りあげた今後 10 年間の指針

《活性化ビジョンの推進期間》

平成 23 年度から平成 32 年度の 10 年間



（平成 22 年 8 月に開催されたワークショップの様子）